



ふるさとに
エールを。

公益信託

荘内銀行ふるさと創造基金

募集期間

2024年 1月4日 木 ▶ 2月13日 火



株式会社荘内銀行
頭取 松田 正彦

豊かで潤いのある地域社会の実現に向けて

公益信託荘内銀行ふるさと創造基金は、2001年に当行が設立した基金です。運営委員の皆さまをはじめとする多くの方の力をお借りしながら運営を継続しており、2023年度までに山形県内の学校教育、社会教育、文化活動を対象として、延べ978件に助成を行いました。

荘内銀行は、「サステナビリティ方針」および「SDGs宣言」のもと、地域社会・地域経済の持続的な発展に貢献していくことを目指しています。ふるさとの未来を展望し、教育・社会・文化の面で地域課題解決に力を尽くすことは当行の重要な使命であり、地域に根差した活動の継続、発展を支援する本基金は、持続可能な地域社会を実現するうえで重要な役割を担っていると感じています。

山形県内で熱意をもって活動されている皆さまに本基金をご活用いただき、地域の未来を担う人材の育成、優れた文化の伝承と創造が推進されることを祈念しております。

基金設定趣意書

当行は明治11年の創業以来、地域金融機関として2つの世紀にわたり、地域の皆様の温かいご支援を頂き、今日まで地域とともに発展してまいりました。

また、未来に向けた荘内銀行のメッセージも「地域の発展と共にある銀行」であります。21世紀の門出にあたり、永年、当行を育てていただいた地域へ感謝するとともに、「公益信託荘内銀行ふるさと創造基金」を設置し、生涯学習活動と芸術・文化活動を支援し、もって真に豊かで潤いのある地域社会を築くために役立てたいと念願するものであります。

2001年4月 株式会社荘内銀行

[基金概要]

信託目的：この公益信託は、株式会社荘内銀行が山形県内において、優れた人格と知性を備えた人間を育成し、あわせて優れた文化の伝承と創造の促進を目指し、真に豊かで潤いのある地域社会を築くために、学校教育、社会教育及び文化活動への支援を通して教育・文化の向上と推進を図り、もって地域社会の発展に寄与するために設定するものです。

対象となる活動：○学校における教育的な活動
○地域住民と一体となった社会教育的な活動
○県内に伝わる文化的な活動

委託者：株式会社荘内銀行(山形県鶴岡市本町一丁目9番7号)

受託者：みずほ信託銀行株式会社(東京都千代田区丸の内一丁目3番3号)

信託管理人：柴田直人(弁護士)

運営委員：廣瀬 渉(元山形県教育委員会 教育長)
酒井 忠久(公益財団法人 致道博物館 顧問 名誉館長)
寒河江 浩二(株式会社 山形新聞社 代表取締役会長)
柴田 曜子(元山形県立鶴岡南高等学校 校長)
沼野 慈(特定非営利活動法人 NPO もがみ 理事長)
伊藤 浩志(国立大学法人 山形大学 教授 大学院有機材料システム研究科長)
上野 雅史(鶴岡商工会議所 会頭)

公益信託の形態：特定公益信託

主務官庁：山形県教育委員会

当基金に対し、オリエンタルモーター株式会社様より継続してご寄付を頂戴しております。

これまでの助成先

学校教育

やまがたAI部運営コンソーシアム

助成事業:やまがたAI部

AI・デジタル人材の育成を目的に、産学官金が連携し「デジタル人材育成プロジェクト」を展開。高校生を対象に、エンジニアによるオンラインAI講座やものづくり企業の見学、AIでゆでたまごの状態を予測する実験など身近なテーマを通じて、知識・技術の体得をサポートしています。年々参加校が増えており、実験道具やテキストなど学習環境の整備に当基金を活用しました。

また、AIを活用した地域課題解決に向けた取り組みなどの成果を発表する場として、毎年3月に「やまがたAI甲子園」を開催。生徒がそれぞれの技術やアイデアを高め合うとともに、自信や達成感を得る機会となっています。



社会教育

鶴岡スペースステーション

助成事業:庄内から宇宙を発信し、宇宙を身近に感じてもらうための活動

地域の子もたちが最先端の宇宙科学に触れることで、将来の選択肢や視野が広がるきっかけとなることを目的に活動しています。

助成事業では、閉校した旧鶴岡市立加茂小学校を会場に、ロケットや宇宙ステーションのミニチュア模型の展示や、火星探査車を模したラジコンで火星調査を疑似体験するコーナー、介護用の機器で火星の重力を体験するコーナーなど、楽しみながら学べる機会を提供。運営にあたっては、子どもたちが主体的に関われるような仕組みづくりに取り組んでおり、知的好奇心を育てるだけでなく、世代を超えたつながりの創出にも貢献しています。



文化活動

伝統工芸「原方刺し子」を伝承する会

助成事業:米沢藩の江戸時代から伝承されている伝統工芸品の新たな伝承へ～地域の宝を守り、活用して宝を保持するまちづくりに向けて～

「原方刺し子」は、江戸時代に米沢藩の下級武士「原方衆」の妻たちの間で生まれ、デザイン性が高く海外からも高い評価を得ている伝統工芸でありながら、後継者の育成と技術の伝承が課題となっていました。

課題を解決するため、米沢工業高等学校専攻科と連携し、ITを活用した新たな伝承方法を考案。当基金を活用し、技法の映像化と図柄のデジタルデータ化を行い、さらにスキルに応じた刺し子体験ができる「刺し子学習キット」を制作しました。初心者でも気軽に体験できるようになっただけでなく、オンライン体験教室では県外や海外からの参加も多くみられるなど、世代や場所を問わない普及・継承の方法を確立しました。



助成のポイント

当基金では、さまざまな団体・個人が多く関わる活動を通じて、その成果が地域に広く波及することを重視しています。また、活動の内容が、公益性が高いものであることも重要です。

申請の際は、継続事業の充実や新規事業の計画でこのようなポイントを教えてください。皆さまの工夫やチャレンジが一過性のものになることなく、継続的・発展的に取り組まれることで地域課題の解決が着実に進むことを応援します。

荘内銀行ふるさと創造基金 地域貢献大賞

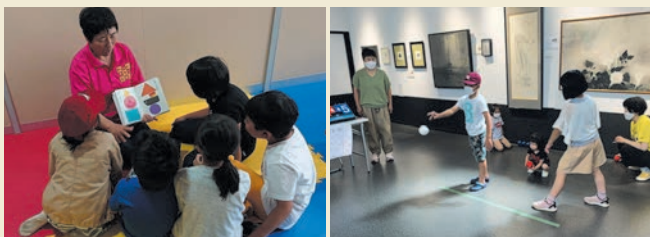
これまでの助成団体の中から、地域文化の普及や地域課題の解決など、豊かな地域社会の創造に向けた独自の活動を展開し、活動の継続性と発展性の面で顕著な取り組みがあった団体に贈呈しています。2012年に開始し、累計30団体に贈呈しました。

2023年度 受賞団体

家庭教育応援・ボランティア活動団体 **アベルんち**

「つながり・出会い・発見」をキーワードに、人・家庭・地域が元気になる場をつくりたいと絵本を使った交流会から活動を開始。以降、取り組む課題の幅を広げ、不登校やひきこもり、発達障がいなど生きづらさを感じている子どもや若者、その家族らの交流・情報交換の場である「リースの会」、農園での手伝いを通じて社会とのつながりを創出する「畑のハンモック」、自己肯定感を育み社会参加を後押しする「たご焼きやき隊」など、活動を発展させてきました。

2021年からは誰でも参加できる居場所「イマール」を開設し、楽しみながら交流できる機会を提供。より良い親子関係・家庭環境の構築に向け、参加者の声を取り入れながら支援のバリエーションを増やしています。



一般社団法人 **やまがた福わたし**

フードドライブで集まった食品や企業で流通できなくなった食品を、食の支援が必要な個人や福祉団体、子ども食堂などに「おすわけ」するフードバンク活動を実施。フードドライブは、学校や企業などの協力のほか、スーパーなどに設置した「お福わけBOX」で各家庭からも提供いただいています。

各地域の自立支援窓口やNPO法人等と連携し、自立に向けた食料支援やフードパントリー（対面での食品配布会）を行いながら、支援制度などの情報提供や行政への橋渡しなど、困窮世帯の孤立を防ぎ、自立に向けた長期的目線での支援にも注力。

活動の普及・啓発にも力を入れ、フードバンク、フードドライブを市民に身近な取り組みとして浸透させ、サステナブルな地域社会の実現に大きく貢献しています。



2023年度 助成金贈呈式・交流会

当基金では、助成団体同士の交流・情報交換の機会を設けるなど、団体のネットワーク拡大も支援しています。

2023年度は、助成金贈呈式と同日に交流会を併催。展示ブースを設け活動のPRにお役立ていただいたほか、団体の規模や活動エリアを超えた情報交換の場としてご活用いただきました。基金を通じた交流をきっかけに、共催企画の実施や事業連携による活動エリアの拡大など、活動の発展にも貢献しています。



私たちは持続可能な開発目標(SDGs)を支援しています。

募集要項

公益信託荘内銀行ふるさと創造基金 募集要項

趣旨	山形県内における学校教育、社会教育、文化の振興に関する生涯学習に資する活動を支援します。
助成の対象となる活動	<ul style="list-style-type: none">○ 学校における教育的な活動○ 地域住民と一体となった社会教育的な活動○ 県内に伝わる文化的な活動
助成の対象とならない事項	<ul style="list-style-type: none">○ 宗教的、政治的宣伝意図を有する活動○ 営利を目的とする団体・個人およびその活動○ 反社会的勢力もしくはそれらと密接な関係がある団体・個人およびその活動
助成対象活動期間	2024年4月1日(月)～2025年3月31日(月)
助成金額	1団体につき10～40万円、かつ活動の所要額を限度とします。活動内容や活動規模および申請額に基づき、金額を決定します。
助成金の使途	活動に関する費用であれば、機材費、会場費、消耗品費、旅費、謝礼金等を含め、その内容を問いません。ただし、人件費は対象外です。
選考基準	助成先決定にあたっては、運営委員会による審査・選考があります。 <ul style="list-style-type: none">○ 地域の教育力を高める、または教育環境を整える活動であること。○ 個性的・先進的な取り組みで、地域に密着した活動であること。○ 夢のあるチャレンジ精神豊かな活動であること。○ その他公益信託の設定趣旨に基づいた活動であること。
スケジュール	2024年4月下旬～5月上旬 選考結果を書面で通知 6月上旬 助成金贈呈式 7月下旬 助成金支給 2025年6月末日まで 活動報告書提出
助成金の返戻	申請活動が中止または継続不能になった場合、助成金の全部または一部を返戻していただきます。
報告の義務	助成を受けた団体には、助成対象事業終了後、活動の結果および会計についてご報告(領収書も添付)いただきます。

「申請書」「補足資料」はデジタルデータでEメールにてご提出ください

応募の際は、ホームページおよび募集要項を必ずご確認ください。

募集期間	2024年1月4日(木)～2024年2月13日(火)事務局必着
応募書類	<p>○申請書(Excel ファイル)※「荘内銀行ふるさと創造基金ホームページ」よりダウンロードしてください。</p> <p>申請書ダウンロード▶ <input type="text" value="荘内銀行 ふるさと創造基金"/> <input type="button" value="検索"/></p> <ul style="list-style-type: none">ダウンロードした Excel ファイルに必要事項を入力* ホームページに記入例を掲載しています。
	<p>○補足資料(原則 PDF ファイル)</p> <ul style="list-style-type: none">活動内容、事業内容が具体的にわかるものA4 サイズ 5 ページ(枚)以内* 冊子等で 5 ページ(枚)以上となる場合は、抜粋してください。
応募方法	<p>○応募はEメールのみ</p> <ul style="list-style-type: none">当基金専用メールアドレス(s-furusatokikin@fidea.co.jp)宛に応募書類のファイルを添付のうえお送りください。メールの件名は「2024年度助成申請_申請団体名」としてください。メール本文に団体名、送信者の氏名、連絡先を記載してください。添付ファイルを含めたメールの容量は 8MB 以下となるよう調整してください。* 8MB を超えると受信できません。受信を確認したい場合は電話にてご連絡ください。* 8MB を超える場合は、分割で送信し、メール件名の最後に 1/2、2/2 と補記してください。
留意事項	<ul style="list-style-type: none">応募書類は、審査資料となります。変更のないよう十分ご検討のうえご応募ください。応募のメールを受信した後、3 営業日以内に事務局から受取確認のメールをお送りいたします。受取確認のメールが届かない場合は、受信できていない可能性がございますので、必ず電話にてご連絡ください。Eメールでの応募、書類提出が難しい場合は、事前にご相談ください。ご提出書類等で得た個人情報、基金の運営においてのみ使用し、それ以外の目的で使用することはありません。事務局では、申請に関するご相談を随時受け付けています。ただし、募集期間後半の申請書の受付が集中する時期などはお受けできない場合がございますので、あらかじめご了承ください。

申請書のダウンロード・応募・お問い合わせ



申請書のダウンロードはホームページから

URL: <https://www.shonai.co.jp/aboutus/csr/kouekijyosei.html>



過去の助成先や地域貢献大賞受賞団体の紹介などさまざまな情報をご覧ください。



応募・お問い合わせ

s-furusatokikin@fidea.co.jp



お問い合わせ

023-626-9006

[受付] 平日 9:00～16:00

荘内銀行広報CSR室内 公益信託荘内銀行ふるさと創造基金 事務局

[住所] 〒990-0043 山形県山形市本町一丁目4番21号